

市史編さんだより

2008. 11. 1

〒229-0021

相模原市高根 3-1-19

電話 042-750-8025

FAX 042-750-8039

発行 相模原市総務局総務課市史編さん室

ホームページ: <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>

E-MAIL: shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

けいさん 過去を知らせる宝石 “植物珪酸体”

～調査報告書「相模原周辺の関東ローム層中の
植物珪酸体からみた過去 8 万年間の気候植生変化史」より～

「相模原台地を覆いつくしている関東ローム層（赤土・黒土）は、富士山を主とする火山の爆発的噴火で生じた火山灰が風で送られ降下堆積した地層である。これは台地化した平坦な土地に何百回となく降り積もり堆積したもので、流水により浸食されて欠けることもなく、数万年の間ほぼ連続した地層を形成している。（報告書まえがきより）」

この地層の中に過去の気候の変化をわたしたちに教えてくれる宝石が眠っています。それが植物珪酸体です。

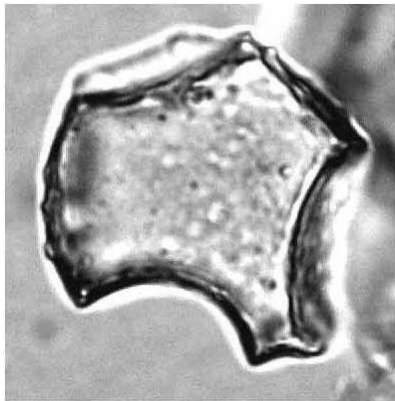
これは、植物の中にたまる珪素と酸素と水素との化合物からできている珪酸の塊で、顕微鏡でなければ見られないほど小さなものですが、その形はさまざまでプラント・オパールとも呼ばれ、宝石と見間違えるほど綺麗なものです。

この植物珪酸体は、植物の種類により形が違っていて、地層から得たこの形を調べることによりその時代の植生がわかり、気候の寒暖の変化もわかるのです。

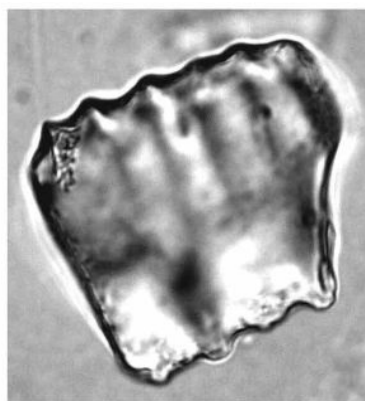
この試みは、本市では初めてのもので、市内の過去 1 万年から 6 万年位までの間の

地層から約 250 点の試料を採取して、それぞれの地層に占める植物珪酸体を識別し、植生と気候の寒暖の変化を報告書としてまとめます。

なお、この報告書は来年 3 月発行の予定で、現在、編集作業中です。



(非タケ亜科起源珪酸体)



(タケ亜科起源珪酸体)

南と北から見た相模原の眺望

～近現代部会市内巡検～

10月26日に近現代部会の市内巡検が開催されました。当日、午前9時30分に相模大野駅に集合し、徒歩で相模女子大学へ向かい、許可を得て、校内にある市登録文化財の旧陸軍通信学校将校集会所および庭園を見学。このほか、校内には旧陸軍が設置したマンホールの蓋も残っていました。

その後、市立相模原麻溝公園のグリーンタワー展望台に上がり、地上38メートルからの相模原の眺望を見ました。次に、木もれびの森に現存する市登録文化財の畑地灌漑用水大野支線を見学し、今もぶどう栽培の跡の光景が残るゲイマーぶどう園跡地を車窓に見てから、今度は一転して相模川のほとりの水郷田名へ。その後は、対岸から相模原を見るため高田橋、新小倉橋を渡って北総合体育館に向かいました。

午後からは北清掃工場を車窓に見て、峡の原工業団地を経由して一路津久井湖へ。城山ダム周辺の津久井湖観光センター、城山ダム展望台、津久井湖記念館の施設を見学しました。記念館には、ダム建設によって移転し、新しいふるさととなった相模原市二本松地区の様子を伝えるパネル展示もありました。

次に橋本へと向かい、相模原協同病院近くの戦没者慰霊のための忠魂碑を見学。その後、元橋本町にある市登録文化財の牛久保家の長屋門を外から見学し、ミウヰ橋本へ。

ミウヰ橋本8階にある杜のホール橋本の一角から再度相模原の眺望を見て、巡検を終りました。



(城山ダム)

編さん室の動き 9月・10月

9/9日	民俗聞き取り調査(大沢)	究	
10日	社寺事前調査(相原・下九沢)	資料館)	
13日	近現代部会	10日	石造物・景観調査チームリーダー
16日	勝坂遺跡資料調査	一情報交換会	
17日	自然部会(地形地質分野)	16日	国立国会図書館調査
23日	民俗部会	15日	社寺事前調査(相原・大島)
24日	自然部会(動植物分野)	19日	自然部会(地形地質分野)
29日	文化遺産部会	20日	民俗聞き取り調査(上溝・大沢)
10/9日	国立国会図書館調査	23日	国立国会図書館調査
10日	神史協研修会に参加(国文学研	26日	近現代部会市内巡検

熱も入って、和気あいあい 石造物・景観調査



10月10日、市史編さん室会議室で各チームリーダーによる情報交換会(左写真)が開かれました。

9月から各公民館区の調査が相次いでスタートしましたが、各地区での調査を進める上で出てきた、調査方法や記録の仕方などについての様々な疑問点や、アイデアなどについて、また他地区の進行状況などを話し合いました。

各地の調査チーム訪問

9月の下旬から10月にかけて、いくつかのチームの調査や打合せに参加してきました。感じたことは、どのチームも、石造物に詳しい方も全く初めてという方も和気あいあいと、本当に楽しそうに熱の入った活動をしているということです。

皆さんの様子を写真でお知らせします。



パソコンと地図を使って作戦会議（光が丘）



調査に出かける前の打合せ（相武台）



慰霊塔周辺の石碑を調べる（大沼）



道端の道祖神を調べる（上溝）



景観調査で地域を歩く（相原）

資料の生きるまで

第3回 目録の作成

前回、虫干しとくん蒸を終えた相模湖町与瀬の坂本家資料は、専用の文書箱にして20箱以上という膨大な量になりました。そのいずれも、津久井広域連合やボート競技に関する資料など、相模湖町政の歩みを垣間見ることのできる貴重なものばかりです。

それらを箱から取り出し、内容ごとに分類していきます。さらに年代順に並び替えていくと、膨大な資料の全容が次第にはっきりとしてきます。

次に、整理した資料の情報をパソコンを使って入力していきます。表題、年代、発信者など、一点一点確認しながら入力していく作業はなかなか根気のいるものです。しかし、こうしてできた目録があってこそ、確実な管理や瞬時の検索が可能になり、貴重な文書群を歴史資料として活用することができます。

このようにして受け入れの最終作業を終えた資料たちは、市史編さん事業の礎となり大切に保管されていきます。現在、坂本家資料は博物館に移管されています。(おわり)

このコラムでは、編さん室に寄贈していただいた文書が資料として生きるまでの過程をレポートしてきました。最終回となる今回は、文書を分類し、目録を作成する作業について説明します。



(坂本家資料を分類中)

生活感あふれる『民俗編』!! ~いよいよ執筆の段階へ~

9月23日に民俗部会が開催されました。いよいよ『民俗編』の執筆に入るため、細かな内容や執筆要領が決まりました。これまでに何度か調査の状況などをご紹介しますが、ここでは内容の構成などについてお知らせします。

相模原市史『民俗編』はA4版600ページの予定で、第1章 相模原市の民俗と地域文化、第2章 景観の変貌となりわい、第3章 暮らしの組立てと変化、第4章 地域社会の仕組みと付き合い、第5章 人の一生と儀礼、第6章 年中行事と季節感、第7章 社寺の信仰と祭祀、第8章 石仏と信仰、第9章 芸能とその伝承、第10章 伝説と言い伝えの10章構成で、旧相模原市域の民俗を説明します。このほかに各章内に織り交ぜられる、身近な暮らしの光景に解説を付けて記述する“暮らしの写真帖”も見所のひとつです。

平成21年度刊行予定の『民俗編』にご期待ください。



~~~~~ 好評発売中! 「現代資料編」「現代図録編」 販売書店 ~~~~~

紀伊国屋書店相模原店(相模大野) ブックスアミ南口店(相模大野) 柴胡書房(文京) ブックス山田(松が枝町) 相模書房本店(相模台) 渡辺書店(相模台) 相模書房女子美術大学店(麻溝台) 久保田書店(千代田) 中村書店淵野辺本町店(淵野辺本町) 中村書店ダイエー店(上溝) 中村書店本店(横山) 三基書房(田名) 中村書店田名店(田名) 中村書店橋本店(西橋本) 有隣堂ミウヰ橋本店(橋本) カクダイ書店(二本松) 山本書店(津久井町中野) 敏正堂(相模湖町与瀬) ふじの書房(藤野町小淵)